

くまもんがやってきた！

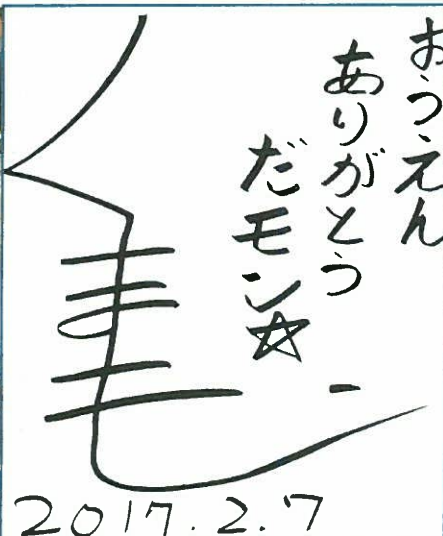
チーム大分に感謝状授与



「チーム大分」の熊本地震被災者支援活動が認められ、2月7日にくまもんから感謝状が授与された。日田市の咸宜小学校を訪れたくまもんは梅山代表に感謝状を手交した後、参加したチームのメンバーとハグをするなどして感謝の意を伝えた。その後、くまもん体操を児童と一緒にするなどして交流を深めた。この日は小学校のオープンスクールが行われており、突然のくまもんの訪問に児童も保護者も大喜びだった。

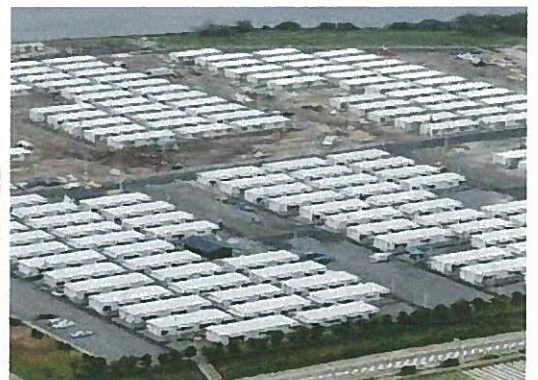
支援活動に述べ286名が参加 現在も活動継続中

「チーム大分」は熊本地震本震（4月16日）翌々日の18日から活動を開始、20日は南阿蘇村の避難所に支援物資を届けた。その後、阿蘇市内牧避難所での炊き出しや、大津町・南阿蘇村立野地区・菊池市、西原村での瓦礫撤去や家屋片付け、西原村での農業支援などを10月末まで行い、その後は益城町テクノ仮設住宅団地の支援を行っている。この活動にはこれまで述べ286名が参加した。



益城町仮設住宅居住者の4割が高齢者

チームが支援しているテクノ仮設住宅団地は92世帯、その内39.8%が65歳以上の高齢者、21%が一人暮らし、二人暮らしは33%となっており、高齢者のケアが重要課題となっている。



Wish 22

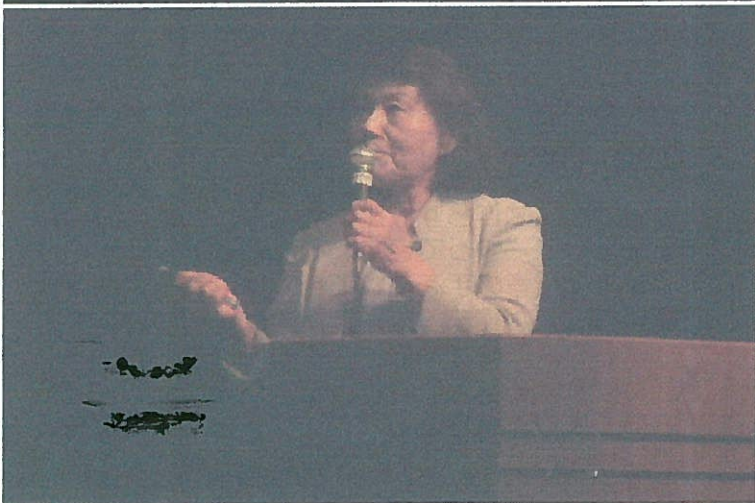
February 12

Volunteer Network Team Oita
(事務局) 日田市朝日ヶ丘352-22 梅山宅 ☎090-3079-2080

顔が見え支えあえる避難所や仮設住宅作りを

「できる人が、できる時に、できるしこ」

熊本・大分地震に学ぶ講演会で吉村さんが絆作り訴える



5月13日、チーム大分主催による熊本・大分地震に学ぶ講演会を開催。

チームは東日本大震災が発生した翌年の2012年から災害の記憶を風化させないために、東北の被災者を招き毎年シンポジウムを行っている。

梅山代表、行村日田市総務部長の挨拶の後、チーム大分中島章二事務局長がスライドを使ってチーム大分の活動を報告。昨年12月に益城町テクノ仮設住宅団地でのクリスマスプレゼント活動に参加した北部中学校の5名の生徒が体験報告を行った。

その後、吉村静代さんが「自分の身を守る・・・そしてみんなで助け合う」と題して講演を行った。吉村さんは自らの体験をふまえて「地震に襲われた時、かろうじて屋外のカーポートに避難し3日を過ごした。避難所では“どうせ住むなら楽しく、そしてみんなの顔が見えるように”と混雑していた避難所に通路を作り、居住区割を行った。出来た空間にはキッズルームやお茶飲みスペースを作った。避難所運営の組織は作らず”出来る人が、出来る時に、出来るしこ”やってきた。そのことで2ヶ月で行政の支援者の手を離れて自立運営を行えた。見知らぬ人が集まった避難所では結びつき作りが重要で、そのためにいつでも顔が見られ、声が掛けられる雰囲気を作った。現在は仮設住宅に移ったが、引き籠りや孤独死を出さないよう絆作りを行っている」と話した。吉村さんの家屋は全壊、避難所生活を経て仮設住宅に居住。居住者の絆作り奔走している。

当り前の生活の有難さ学ぶ

中学生がボランティア体験を発表

チーム大分が昨年4月20日から行っている現地での支援活動の内、西原村での農業支援や昨年12月に実施したクリスマスプレゼント活動には100名を超す市内の中学生が参加し。

この講演会では昨年12月に益城町テクノ仮設団地でサンタに扮して全戸を訪問しプレゼントを手渡ししながら入居している被災者と交流した中学生5名が「実際に見た被災地の状況に言葉を失った」「助け合いの大切さを痛感した」「当たり前のできる生活の有難さを知った」など現地で体験し聞いたことを発表しました。(発表した中学生の了解を得てその全文を掲載した)



Wish Vol.24

May 20, 2017

Volunteer Network "Team Oita"

事務局: 日田市朝日ヶ丘352-22 ☎090-3079-2080

入居から間もなく1年 テクノ仮設団地で花壇作りや交流深める

6月10日（土）、メンバー15名が児童2名を伴って益城町テクノ仮設団地を訪問。昨年11月に団地入口の荒地を耕して作った花壇のパンジーやチューリップの球根を掘り出し、ヒマワリの種約1500粒を植え付けた。参加4回目の児童もメンバーと一緒に汗を流した。

集会所で行った「出前うたごえ喫茶」には21名の入居者が参加し、童謡や唱歌20曲を歌った。引き続き行われた「石鹸アート」にも挑戦。白地の石鹸に切り抜いた絵柄を張り付け、コーティングして完成。見事なオリジナルの作品に歓声が上がった。また、「編み物教室」も並行して行われた。

お昼にはみんなでソーメンを作り、食べながらの交流も。5回目となる訪問で顔見知りも多く、女性同士ということもあって笑い声が絶えなかった。



(うたごえ喫茶)



(石鹸アート)



(指編み)



(チューリップ畑づくり)



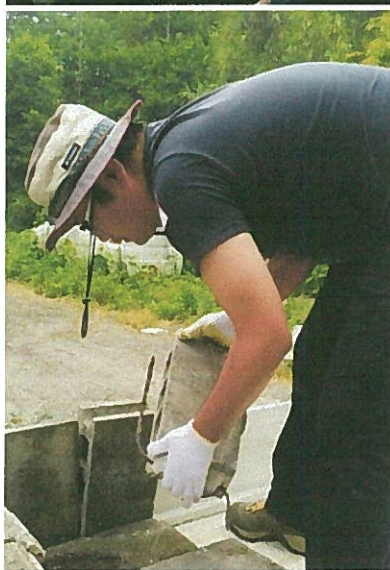
(チューリップ種植え)

新谷祐貴君の活動認められ会社が表彰

昨年の熊本地震発生直後からチーム大分の活動に参加し、これまでの活動回数はチーム4位の新谷祐貴君。

(写真右)

その活動が所属する(株)サニクリーン九州に認められ表彰されることになった。



ここでも課題は孤立化防止

東日本大震災から7年、石巻市ではようやく復興住宅が完成。チームが交流を続けている浜谷勝美さん家族も仮設住宅から復興住宅へ転居した。復興住宅は5回建てのマンション形式。平屋建ての長屋形式だった仮設住宅でも容易ではなかったコミュニティ作りがより困難になったと浜谷さんは嘆く。入居者に高齢者が占める割合も高くその孤立化防止も求められる。住民相互の絆作りと併せ熊本でも同様の問題が生じないよう方策を考える必要がある。

Wish

Vol.25 VolunteerNetwork® Team Oita®

九州豪雨日田市を襲う

チームは翌日から支援活動を開始



7月5日から降り続いた雨量は6日5時までの24時間に375mmを記録。河川の氾濫により日田市全体で死者3名、家屋全壊12、半壊8、床上浸水93、床下浸水98などの被害が発生した。

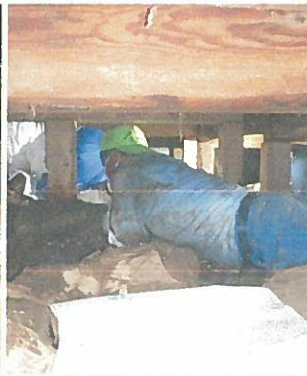
山田町でも床上浸水8、床下浸水9の被害が生じ、6日早朝、重石自治会長よりチームに支援要請が寄せられた。

この町は日頃より地域ぐるみで避難訓練などに取り組んでおり、幸い人的被害は免れた。

要請を受け6日午前、梅山代表、溝口副代表（市議）が山田町に入り被害状況を確認。ボランティアセンターが開設される前の7日から具体的な支援活動を開始。ボランティアセンター開設後はセンターと連携して活動。16日には山田町全ての被災家屋のクリーン作戦が終了した。

この活動には述べ135名のメンバーが参加した。

被災住民から謝辞



17日早朝、山田町公民館で被災した住民一人ひとりから感謝の言葉が述べられた。メンバー達も大感激。住民に見送られて次の活動地の大鶴（大肥本町）へ向かった。

プロレスラーもチームに合流

吉村静代さんも激励に



2012年の北部九州豪雨の支援活動以来交流を続けている大分市のプロレス団体F T Oのレスラー、スタッフ7名がチームに合流。藤山町で床上浸水した家屋の家財搬出や泥だしなどを行った。また、チームが支援を続けている益城町テクノ仮設団地の吉村静代さんも激励に駆けつけてくれた。

五反田病院が布団等を寄贈

山田町で家屋が全壊、家財道具を全て失った被災者が朝日ヶ丘の市営住宅へ避難。五反田病院の事務長が見舞いに訪れ布団等を寄贈した。

Wish

Vol,26

Volunteer Network "Team Oita"

目の当たりに広がる惨状 災天下でチームの活動続く



7月6日に始動した山田町での活動が16日に終了。
17日には大肥本町に入った。受け持ったのは5世帯の集落だが、全ての家屋が床上浸水。家への取り付け道も分からない程の土砂が家の周囲に積もっている。市内で石材店を営んでいる原田根一郎さんがユンボとキャリアー3台で駆けつけてくれた。チームもダンプを1台レンタル。この機動力がなく、人力で作業を行えば悠にひと月は掛るだろう。
チームも連日フル稼働。VCからも22日まで20名のボランティアを派遣してもらった。22日・23日には日体大の学生8名、市内の三隈高校生10名も床下の泥だしや家財ゴミの分別などを手伝ってくれた。
気温は毎日34度超、こまめに休憩を取りながらの作業が続く。
25日に3世帯の母屋の片付けが終了、農業用倉庫、泥に埋まっていた車3台、農業用トラクター2台などを掘り出した。



Wish Vol.27 (7,24,2017)

Volunteer Network “Team Oita”

事務局：日田市朝日ヶ丘352-22 ☎090-3079-2080

熊本から日田へ恩返し

吉村さんが活動と義援金で

7月28日、熊本県益城町テクノ仮設団地在住の吉村静代さんがチームが活動中の大肥本町を訪れた。チームは昨年10月、仮設住宅居住者の支援のため吉村さんが自治会代表を務めているテクノ団地を訪問。その後、「うたごえ喫茶」や「指編み」「フラワーアレンジ」「石鹸アート」などの教室を集会所で定期的開催するなど交流を続けている。また、昨年12月には日田市内の5中学校の生徒およそ80名がサンタに扮して個別訪問し、クリスマスプレゼントを手渡した。この日は、これらへの恩返しにとチームメンバーと一緒に泥だし作業、その後、仮設住宅居住者に呼びかけて集まった義援金を大明中学校と戸山中学校に、チームに活動資金を贈った。吉村さんは「一番苦しい時期に皆さんに励まされていた。今度はお返しをする番です」と語った。



(チームと活動する吉村さん)



(義援金を送る吉村さん)



益城町テクノ仮設団地入口の花壇にヒマワリの種が見事な花を咲かせた。この花壇は「団地を明るくしたい」という要望を受け、チームが雑草を刈り耕したもの。昨年末に植えたパンジーやチューリップに続き、6月に蒔いたヒマワリが今は盛りと咲き誇っている。

(写真提供：テクノ団地松舟さん)



仮設団地にヒマワリ咲く

家屋復旧へ全力投入



(ビフォー)



(アフター)

豪雨災害により大きな打を被った大肥本町で7月17日より行っていた活動が8月1日に終了。この活動で5世帯の母屋や農業用倉庫、家屋周辺の泥だしなどを行い、再建への足がかりを作った。チームは4日まで休養を取り5日に再始動する。

Wish Vol.28

Volunteer Network Team Oita

ハードな作業続く

水路の開通やハウス解体など・・・不可欠な重機

7月6日に開始した日田市での被災者支援活動は6カ月を経過した。この間、チームは山田町、大鶴地区、小野地区で家屋や倉庫、農業用水路の泥だしやビニールハウスの解体作業などを行っている。これらの活動に参加したメンバーは北九州市、長崎市、久留米市など県外組を含め述べ450名超に及び。7月17日に大鶴地区に入って以降は、土砂に埋もれた農業用水路の開通やハウス解体などの作業が主となり、ユンボやキャリアなどの重機が欠かせなくなっている。

【ご寄付ありがとうございました】(敬称略)

真如苑・山根一郎・實屋・森健蔵・妙栄寺・安藤真由子・掛橋泰定・松本明美 ニイハラジュンコ
カツミテルオ・日本共産党大分県委員会・木村直美・古澤由起・Play For You・及川幸治・門脇町内会・浜谷勝美・大分NPOデザインセンター
連合愛のキャンパ・みづほ幼稚園・長浜幼稚園



日田市での今年最後の活動が終了 小野地区で家屋の泥だしを行う

12月2日、小野地区で今年最後となる作業を行った。これには13名のメンバーが参加。床下の泥を搬出し、床上を綺麗に拭きあげた。これで2017年の日田市での作業は一旦休止し、これから石巻市や益城町でのクリスマスプレゼント活動を開始する。

Wish

Vol.30

December 8, 2017

Volunteer Network™ Team Oita™ 877-0084 日田市朝日ヶ丘352-22 (梅山宅)

日田から熊本・東北へ

恒例のクリスマスプレゼント活動始まる



(益城町仮設団地に勢揃いした中学生サンタ)

日田市における豪雨災害の被災者支援活動を12月2日で一旦休止。これからの活動を熊本地震被災地の益城町と東日本大震災被災地の石巻市での活動にシフトした。

12月9日には石巻市へ7回目となるクリスマスプレゼントを820袋発送した。

このプレゼントは中学生が10月より行った街頭募金とチームに寄せられた寄付金で購入したもの。15日～18日にかけてチームメンバー5名と中学生14名が石巻市の復興住宅や幼稚園に届ける。

10日にはサンタクロースに扮した市内6校の中学生80名が引率の先生等と益城町テクノ仮設団地を訪問し住宅を個別に訪問してプレゼントを手渡した。終了後、居住者手作りのーライスが振る舞われた。終日、団地に明るい声が響いていた。



(プレゼントを手渡す)



(カレーライスの炊き出し)



(東北にプレゼント発送)

心の安らぎを願いパンジーとチューリップ植える



(パンジーを植えるメンバー)



(色とりどりのパンジーが並ぶ)

12月10日、メンバー7名とキッズ2名がテクノ仮設団地入口花壇にパンジー250株、チューリップ200球を植えた。

この花壇はチームが昨年秋に荒地を開墾して作ったもので、ヒマワリやコスモスなど季節毎に違った花が植えられている。

Wish

Vol.31

December 12, 2017

中学生サンタが石巻を訪問

門脇復興住宅に笑顔広がる



(サンタが石巻に勢揃い)



(個別訪問しプレゼントを手渡す中学生)



(復興節を一緒に踊る中学生)



(カレーライスを振舞う居住者)

12月16日、チーム大分中学生班14名がクリスマスプレゼントを届けるために引率3名と共に石巻市へ入った。チーム大分は2011年からこの活動を行っており今年で7回を数える。中学生がこの活動に参加するのは5回目。

現地入りした中学生は児童74名が亡くなった大川小学校や石巻市で津波の被害が最もひどかった門脇地区などを訪れた。

17日には門脇復興住宅を個別訪問し、直接、プレゼントを手渡した。集会所では住宅の婦人たちが作ったカレーライスをごちそうになった後、入居者との交流を行った。

交流会では石巻復興節やサザエさんなどを中学生も一緒に踊るなどし、集会所は大きな笑い声に包まれた。

現地へ届けるクリスマスプレゼント購入のために、5校の中学生が10月からスーパー前などで街頭募金を実施した。

今回はチームと合わせ820袋のプレゼントを届けた。

幼稚園でも歓声響く

チームのメンバー3名は12月15日に牡鹿半島給分浜の仮設住宅集会所で入居者にちゃんこ鍋を振舞った。

17日は中学生班に合流、18日には石巻市の長浜幼稚園、みづほ幼稚園を訪問し、園児にクリスマスプレゼントを手渡した。お返しに笑顔いっぱいの園児から歌やダンスが披露された。



(大喜びの園児に囲まれたサンタ)

Wish

VOL. 32

DECEMBER 20, 2017

中尾ミエさんが被災者を激励 小野公民館でボラセン主催交流会開催



2月12日、小野公民館で地域住民とボランティアとの交流会が催された。九州北部豪雨被災者を励ますために“ひちくボランティアセンター”が主催したもの。

ゲストとして歌手の中尾ミエさん、大学教授の福岡政行さんが参加。

この日は前日からの大雪で開催が危ぶまれたが、開催時間までには道路の雪も溶け、およそ200名の住民で賑わった。

地元の女性たち手作りのだんご汁が振る舞われ、広島県立大学の女子学生3名の進行でステージイベントがスタート。

抽選会では当選者が出る度に大きな歓声が上がった。当選者は中尾ミエさんから景品を渡され、記念撮影などをして大喜び。

参加者全員で“ふるさと”“上を向いて歩こう”などを合唱。中尾ミエさんが自身のヒット曲“可愛いベイビー”のフレーズを“可愛いばあば〜”に変え、参加者と掛け合いで歌うと会場は笑いと歓声に包まれ最高潮に。

チーム大分の女性メンバーが梅ヶ枝餅作りを提供。子どもたちに作り方の手ほどきも行った。

参加者の一人は「元気をいただいた。生活再建を目指し歩を進めたい」と語っていた。



農地の修復作業など続く みなし仮設からの移転も始まる

被災者支援活動は8か月目に入りなお続いている。

被災家屋の泥だしなどはほぼ解消し、昨年11月以降は農地の瓦礫撤去や水路の泥だしなど農業者支援が主な活動。

2月に入って雪交じりの寒風吹きすさぶ中、重機も使っての作業を行っている。

朗報は被災家屋のリフォームが徐々に終わり、みなし仮設からの転居が始まったこと。

先日もチームが泥だしなどを支援した家族が引っ越しを行った。笑顔あふれる家族にメンバーも感無量の思いで手伝った。



益城町テクノ仮設団地訪問

2月14日、交流を続けている益城町テクノ仮設団地をメンバー3名が訪問した。

出前うたごえ喫茶で「春よこい」など5曲を参加者全員で歌った後、掛橋美智子さんの指導でフラワーアレンジや梅ヶ枝餅作りを行った。



Wish

Vol.33

Feb.15,2018

Volunteer Network "Team Oita"

(事務局) 日田市朝日ヶ丘352-22

☎090-3079-2080

九州北部豪雨

日田市での支援活動終える



チーム大分としての土作業で親しくなった砂だしや家屋片付けな方々との交流も行う。どの作業は6月17日で終了。今後はみなし仮設住宅訪問や引越し手伝いなどの活動に移行する。また、これまで住家の



2017年7月5日、九州北部豪雨月5日発生。これにより死者3名、負傷者4名、住家1290棟(全壊46棟、大規模損壊31棟、半壊240棟、床上浸水157棟、床下浸水828棟)の被害が発生した。また非住家の被害は590棟にのぼった。最大時70余世帯がみなし仮設に入居した。

チームは7月6日に活動を開始、2018年6月17日までに113日活動116名(延べ人数は740名)が被災者支援作業に従事した。

床上・床下などの家屋6件、倉庫7件、側溝6件、水路4件、ハウス4件、田畑6件、のり面整地2件、神社1件の土砂出しや片付けなどを行った。

今回はコンボや運搬車などの重機が活躍。大鶴では家の取り付け道や家屋内に1mの土砂が堆積、重機を使っても5棟を片付けるのにおよそ一月を要した。

小野地区では裏山が崩落して家屋に迫った土砂の整地などを行った。神社の蘇生にも大きな役割を果たした。

昨年8月に氏子らから依頼された若八幡神社の修復などがすべて終了した。

神社は境内や池は土砂で埋まり、玉垣は洪水で崩落するなどの被害を受けた。重機なども使って一旦はきれいにしたものの、10月に台風が襲来。これによ

り洪水が発生し全てが水の泡となった。その後、他地区での作業の合間を縫って修復に取り組んできた。チームの支援活動の締めくくりに6月16日・17日の神社修復に設定。25名のメンバーが活動し若八幡をよみがえらせた。

延べ740名がチームの活動に参加

若八幡神社よみがえる

今後はハードからソフトの活動へ

益城テクノ団地・石巻支援も継続

月1回行っている益城町テクノ仮設団地との交流と石巻市漁業者支援、中学生も参加するクリスマスプレゼント贈呈などの活動はこれからも継続して行うこととなる。9月には日田市の被災地自治会長を招いてシンポジウムも開催する。

WISH

Vol.34

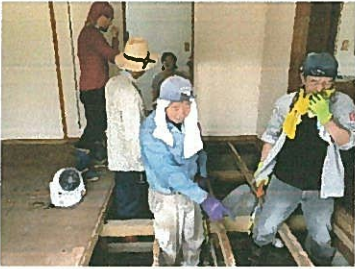
June 20, 2018

VolunteetNetwork "Team Oita" (事務局) 日田市朝日ヶ丘352-22

☎090-3079-2080

西日本豪雨災害発生

各地に甚大な被害もたらす



久留米市で4名死亡、家屋被害は3000棟に及ぶ

2018年7月5日からの豪雨で広島県、岡山県、愛媛県、福岡県など西日本各地で大規模な災害が発生。この災害により223名が死亡、13名が行方不明となっている。

家屋の全半壊などは4500棟、床上・床下浸水は34500棟に及ぶ。

平成最悪の被害となっている。幸いに日田市は免れたものの、福岡県では久留米市などで4名が死亡、家屋の全半壊など128棟、2840棟が床上・床下浸水の被害にあった。

広島県、岡山県などは被害が広範囲に及び流れ込んだ大量の土砂の撤去作業もはかどっていないという。加えて連日の猛暑も作業の進捗を遅っている。

チームは発災翌日に活動開始

発災翌日の7月7日、久留米市善導寺に入り午前中浸水倉庫の片付けを手伝い、午後はおよそ200世帯の殆どが床下浸水、6世帯が床上浸水となっている北野町丸三団地で個別訪問し状況調査と聞き取りを行う。

10日から本格的に活動を始め、久留米市合川、津福本町、北野町で床上・床下浸水の泥掻き、根太清掃、床下断熱材の撤去、災害ごみ搬出、家屋周囲の清掃などを行った。作業が完了した家屋は17日までに10世帯となった。

宇和島市へ

先遣隊を派遣

愛媛県宇和島市に入ったひちくボランティアセンターの松永鎌矢さんの依頼を受け、八月六日に梅山忠信、原田根一郎、三苦淳一、生島啓一、新谷祐貴、小川勝也、井上有起子で構成する先遣隊を派遣する。先遣隊は同市吉田町で家財搬出やフローリング剥がしなどの作業を行った。引き続き八月一六日に六名派遣する。

(写真は広島県の被災現場及び久留米市での作業模様)

真夏の激熱JUDO!! 2018 夏大会2018 日田市復興チャリティ大会

8月17日(土) 19:00 開始 15:00 閉会

8月19日(日) 16:00 開始 15:00 閉会

J・COM ホルトホール大分

日田市中城体育館

チケット ¥4,000、¥3,000、¥2,000、¥1,000、¥500、¥100、全席自由